

平成 26 年度第 2 回 (第 43 回)

気象予報士試験  
実技試験解答例

平成 27 年 2 月

この解答例の全部又は一部を無断で複製・転写することはできません。

一般財団法人 気象業務支援センター

## 実技 1

### 問 1

(1) [13 点]

- ① 124      ② 東北東      ③ 海上暴風      ④ 北西      ⑤ 60  
⑥ 寒帯前線      ⑦ 後者      ⑧ トラフ (気圧の谷)      ⑨ 気圧の谷の軸  
⑩ 西      ⑪ 弱い      ⑫ 積      ⑬ 層積      (⑫と⑬は順不同)

(2) [5 点]

(別ページに掲載)

(3) [6 点]

温度場の特徴：等温線の集中帯がある。(11 字)

温度移流の状況：低気圧の前面で強い暖気移流，後面で強い寒気移流となっている。(30 字)

### 問 2

(1) [12 点]

- ① (別ページに掲載)  
② 500hPa： $-24^{\circ}\text{C}$ の閉じた等温線で示された暖気核がある。(23 字)  
850hPa： $-3^{\circ}\text{C}$ のくびれた等温線で示された高温域がある。(23 字)  
③ 北海道の南東海上

(2) [17 点]

- ① (別ページに掲載)  
② 東北東進し，24 時間後に最盛期となり，36 時間後に襟裳岬付近に達した後消滅する。(40 字)  
③ 地上低気圧は，12 時間後には 500hPa トラフの東側に位置するが，24～36 時間後にはその直下に位置する。(53 字)

### 問 3

(1) [8 点]

伊良湖      最大風速：15 m/s      発現日時：3 日 16 時  
飛 島      最大風速：39 m/s      発現日時：4 日 2 時

(2) [6 点]

伊良湖      寒冷前線が伊良湖のすぐ西に接近している時。(21 字)  
飛 島      日本海の低気圧が飛島に最接近している時。(20 字)

#### 問 4

(1) [4点]

① 西北西      ② 40      ③ 西北西      ④ 8

(2) [2点]

340 km

(3) [5点]

飛島付近の風向が南西から西北西に、卓越波向が南西から西南西に変化し、低気圧周辺でできた高い波が飛島に到達するため。(57字)

(4) [5点]

飛島付近は海上から陸上に向かう西風であり、東北太平洋側の沿岸の陸上から海上へ向かう西風より吹走距離が長いため。(55字)

#### 問 5

(1) [9点]

① 暴風      ② 高波      ③ 暴風雪      ④ 327      ⑤ 暖湿  
⑥ 67      ⑦ 竜巻      ⑧ 融雪      ⑨ 吹き寄せ      (①と②は順不同)

(2) [4点]

気温：イ

注意が必要な時間帯：36 時間後から 48 時間後にかけて

(3) [4点]

吸い上げ効果の大きさ：50 cm

問 5(1) ⑨効果の大きさ：100 cm

潮位偏差：210 cm

## 実技 2

### 問 1

(1) [9 点]

- ① 東北東      ② 風力      ③ 北      ④ 気圧傾度      ⑤ 鞍部  
⑥ 張り出し      ⑦ 尾根      ⑧ 143      ⑨ 141

(2) [2 点]

(別ページに掲載)

(3) [24 点]

- ① 雲頂温度：-36 °C      雲頂高度：450 hPa  
相当温位差：3 K  
② 雲頂温度：-21 °C      雲頂高度：400 hPa  
緯度：北緯 31 °      最大風速：110 ノット  
相当温位差：12 K  
③ 要因：トラフ前面の正渦度移流に伴う上昇流域が進んできたため。(27 字)  
種類：対流雲  
④ 強風軸との位置関係：低緯度側  
前線面との位置関係：ア  
種類：層状雲

(4) [3 点]

緯度帯：b  
根拠：等温線の傾斜が最も大きい。(13 字)

### 問 2

(1) [6 点]

- ① 対応する明瞭なトラフがみられない。(17 字)  
② 低気圧中心は下降流域となり，上昇流極大域は低気圧中心から東方に離れたところにある。(41 字)  
段階：エ

(2) [7 点]

- ① 東北東      ② 10      ③ 50      ④ 30      ⑤ 距離  
⑥ 北東      ⑦ 西

(3) [12 点]

- ① 西      ② 発達      ③ 衰弱      ④ 南東      ⑤ 北西  
⑥ 温度傾度      ⑦ 暖气核

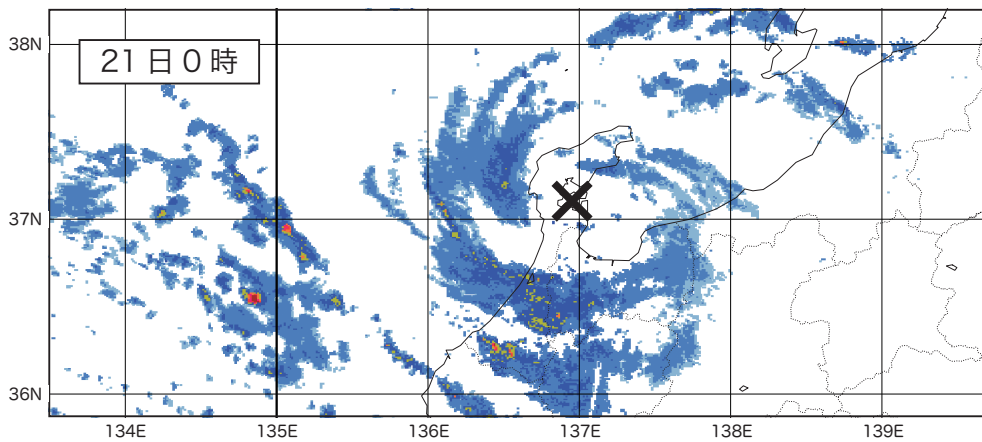
問3〔15点〕

- ① 四国の南海上に周囲より明るいまとまった雲域がみられる。(27字)
- ② 東海地方の沿岸付近で気温の水平傾度が大きく、12時間後には伊豆諸島付近で等温線が北に凸の形状となる。(50字)
- ③ 初期時刻に四国の南にある上昇流域が、12時間後には伊豆諸島付近に進んで強まり、かつその付近が湿潤となっている。(55字)
- ④ 東海道沖ではトラフの接近により正渦度移流が大きくなる。(27字)

問4

(1)〔5点〕

①



② 移動方向：東南東                      速さ：20ノット

(2)〔12点〕

- ① 日時：20日23時20分                      気圧：999 hPa
- ② 日時：21日0時30分                      風速：2 m/s
- ③ 日時：21日1時50分                      風速：13(14) m/s

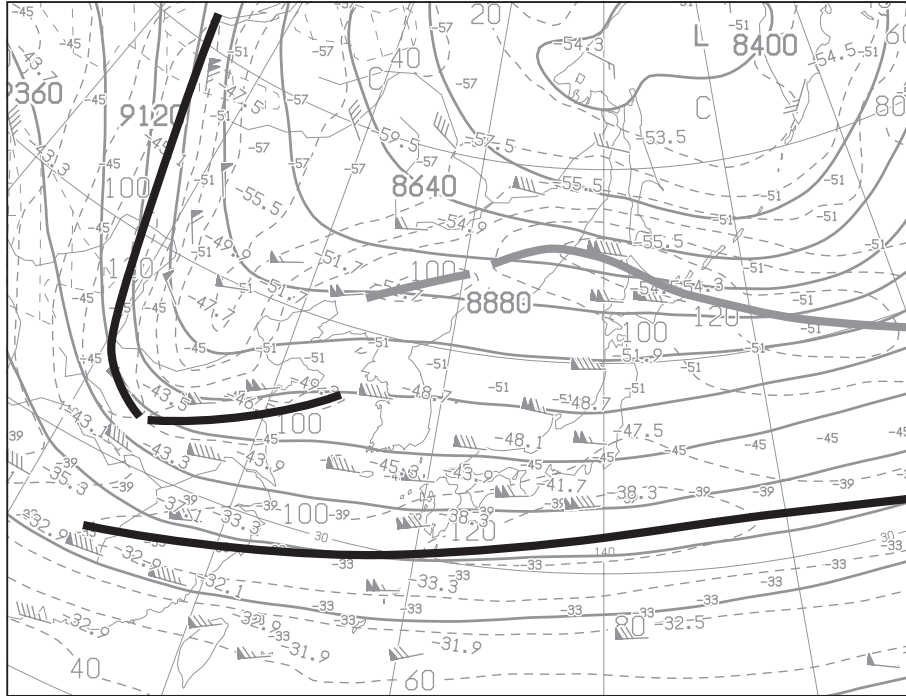
(3)〔2点〕

実況は予想よりも低い。(11字)

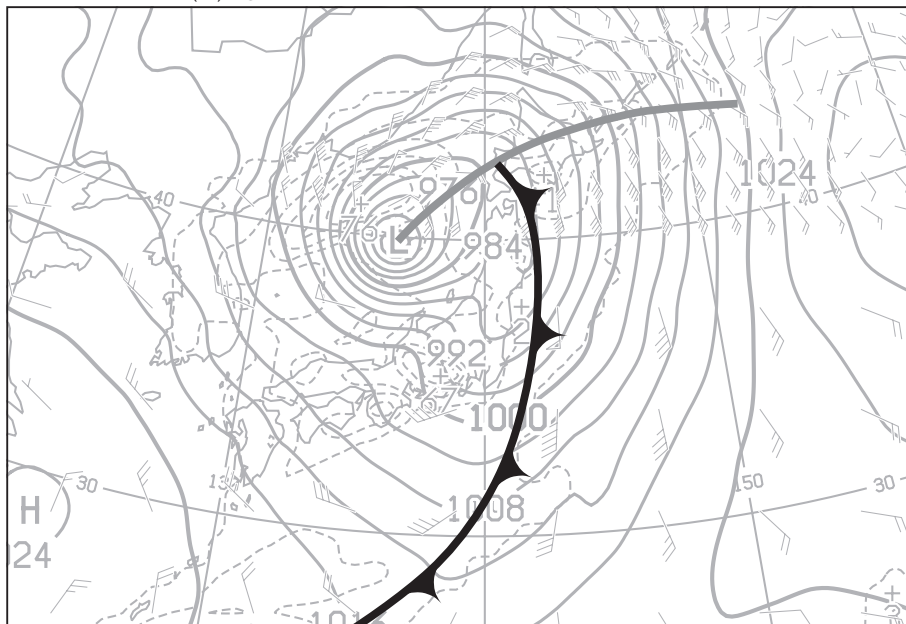
(4)〔3点〕

降水粒子の昇華・蒸発により大気の熱が奪われた。(23字)

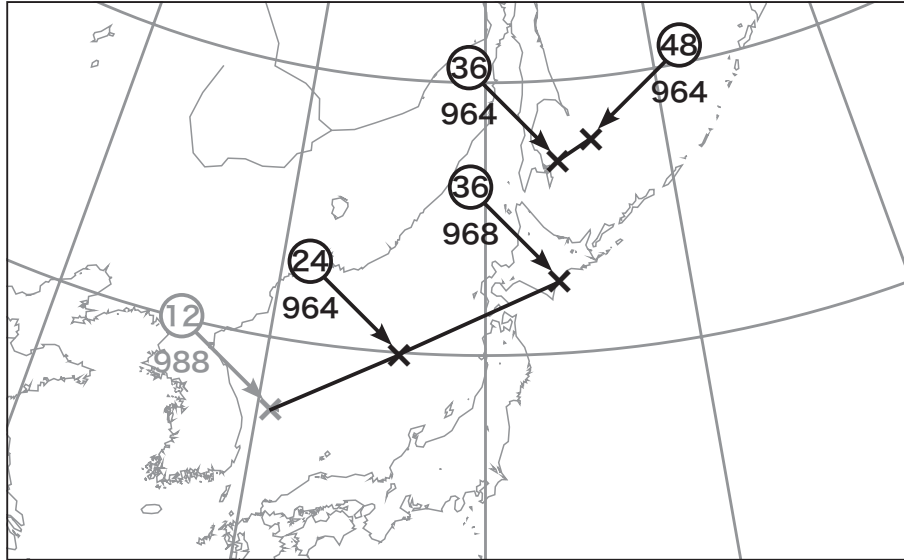
実技1 問1(2)



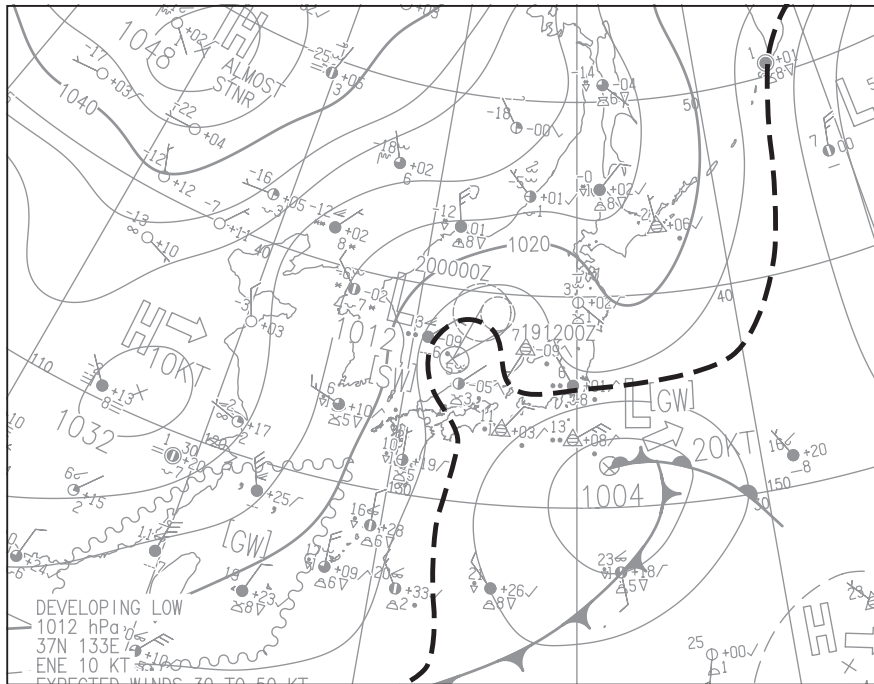
実技1 問2(1)①



実技1 問2(2)①



実技2 問1(2)



平成 26 年度第 2 回 (第 43 回)

## 気象予報士試験

### 学科試験解答

#### 予報業務に関する一般知識

- 問 1 ③
- 問 2 ①
- 問 3 ②
- 問 4 ④
- 問 5 ⑤
- 問 6 ④
- 問 7 ⑤
- 問 8 ②
- 問 9 ⑤
- 問 10 ①
- 問 11 ④
- 問 12 ⑤
- 問 13 ⑤
- 問 14 ③
- 問 15 ③

#### 予報業務に関する専門知識

- 問 1 ③
- 問 2 ②
- 問 3 ②
- 問 4 ①
- 問 5 ③
- 問 6 ④
- 問 7 ③
- 問 8 ⑤
- 問 9 ④
- 問 10 ⑤
- 問 11 ①
- 問 12 ⑤
- 問 13 ①
- 問 14 ④
- 問 15 ②



平成 27 年 2 月 4 日  
(一財)気象業務支援センター

平成 26 年度第 2 回気象予報士試験 学科試験問題について

平成 27 年 1 月 25 日に実施しました平成 26 年度第 2 回（第 43 回）気象予報士試験 学科試験問題の選択肢の一部に適切ではないものがありました。これについては、以下の通り取り扱います。

受験者の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。

学科試験 気象業務に関する専門知識 問 10

問 10 は、文(a)～(c)それぞれの正誤の組み合わせの中から、正しいものを一つ選択する問いです。五つの選択肢①～⑤のうち、選択肢①と③の正誤の組み合わせが同一となっており、実質の選択肢が四つとなりました。

**正解は⑤ですので、この問 10 の採点に当たりましては、特別の扱いはいたしません。**